

11月の相談日です。

日々の生活の中で、誰かに相談したいと思っ
ていることや疑問に感じていることはありませんか。

そんなあなたからの声に応えるための各種無料相談窓口
を紹介します。

秘密は厳守されますので、ひとりで解決しようとせず、
まずは相談してみてください。



11月の相談

静岡牧之原茶マスコット
チャールズイン

*市民相談センターは、市役所棟原庁舎北側の就業改善センター2階にあります。

一般相談

日常生活の中での困りごとや悩み、
分からないことなどの相談を受け
付けます。困ったらまずは相談を。

期日 月曜日～金曜日
時間 9:00～16:00
会場 市民相談センター
市民相談センター ☎030088

消費生活相談

契約トラブルや消費者金融、多重
債務、商品苦情など、消費や契約
に関する相談を受け付けます。

期日 月曜日～金曜日
時間 9:00～16:00
会場 市民相談センター
市民相談センター ☎030088

法律相談(先着8人)

相続や遺産分割、離婚、多重債務
や債務整理などの法律解釈や手続
き、人権に関する相談などを無料
で受け付けます。弁護士、行政相
談員、人権擁護委員が1回30分
で対応します。
相談時には、参考となる書類など
を持参してください。
相談を受けるには、当日電話予約
が必要です。

期日 11月6日(金)・20日(金)
時間 10:00～12:00
13:00～15:00
会場 市民相談センター
予約 8:30～
当日電話予約のみ

市民相談センター ☎030088

心配ごと相談

日常生活から起こる家庭問題や金
銭貸借などの紛争を解決。司法書
士が対応します。

期日 11月13日(金)・27日(金)
時間 9:00～11:30
会場 市民相談センター
市民相談センター ☎030088

暮らしなんでも無料相談

日常生活でのトラブルや悩みごと、
困ったことなどの相談を受け付け
ています。

期日 月曜日～金曜日
時間 9:00～17:00
相談ダイヤル ☎054(646)6055

女性相談

女性の抱えるさまざまな悩みを、
女性相談員と一緒に考え、解決の
糸口を探すお手伝いを電話や面接
にて対応します。

期日 月・火・水・金曜日
時間 9:15～16:00
会場 さざんか
家庭児童相談室 ☎030083

税の無料相談

税務・会計など税に関するあらゆる
相談に無料で応じます。
事前予約が必要となります。

期日 11月20日(金)
時間 13:30～15:30
会場 市民相談センター
東海税理士会島田支部 ☎054706575

巡回交通事故相談

県交通事故相談所の専門相談員が、
交通事故に関する相談に応じます。
事前予約が必要となります。

期日 11月12日(金)
時間 10:00～15:00
会場 市民相談センター
市民相談センター ☎030088

介護相談

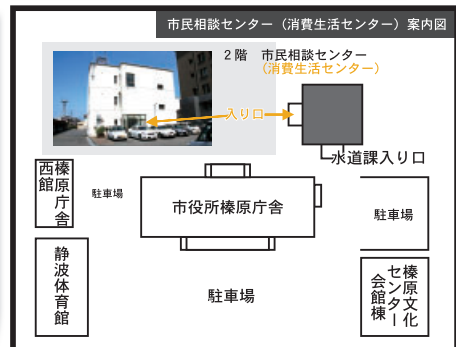
介護する人たちを支えるため、相
談・支援体制を整えています。

期日 月曜日～金曜日
*祝日を除く。
時間 9:00～17:00
(水曜日は19時まで)
会場 さざんか
長寿介護課 ☎030076

高齢者虐待予防相談

「高齢者に関する虐待かな」と思っ
たときの相談です。事前に問い合
わせをして、気軽に相談ください。

期日 11月15日(金)
時間 13:30～16:00
会場 相良保健センター
地域包括支援センターさがら ☎031900



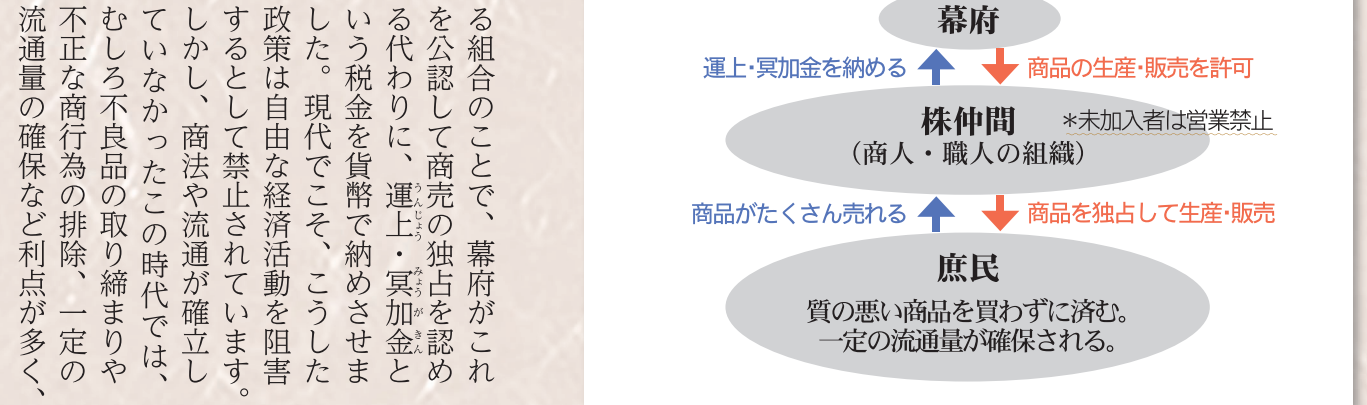
*職員や来庁者など、他人に会うことなく入ることができます



側用人、そして老中へ
― 財政再建への挑戦 ―

宝暦10(1760)年、9
代家重の引退に伴い、嫡男の
家治が10代将軍に就任します。
家治は、家重の遺言を守っ
て意次を御用取次に留任させ
ると、明和4(1767)年
に側用人、安永元(1772)
年には老中兼側用人に任じ
て、幕政を託しました。幕政
の責任者である老中と、将軍
側近のトップである側用人を
兼ねた意次は、名実ともに幕
府の最高権力者へと上り詰め
ました。
小姓のころから仕えていた
家重と異なり、なぜ、家治が
意次をここまで重用したのか
はよくわかっていません。し
かし、ただ一つ確かな点は、
家治が意次に対し、吉宗の時
代から続く課題の解決を委ね
意次がそれに「律義」に応え
ようとしたことです。その課
題とは、幕府の財政問題でし
た。
実は、享保の改革によって
一時的に持ち直した幕府財政
でしたが、このころになると
元の苦しい状態に戻っていま
した。これは、▼年貢増徴増

税)によって百姓の負担が増
したことで、一揆や飢饉が起
きやすくなり、人口の増加が
止まったこと(需要の低迷)
▼その一方で、新田開発を進
めて米の生産量を増やしたた
め、米の供給が必要を上回っ
たこと▼その結果、米価が下
落し、米から貨幣に換金して
生計を立てていた幕府や武士
層の収入が減ったこと―が主
な理由といわれています。
意次の政策目的、つまり田
沼時代の政治とは、この課題
を解決し、幕府財政を再建す
ることにありました。ただし、
美濃郡上一揆の一件でもわか
るように、年貢増徴に頼る方
法では、財政再建が難しいこ
とは明らかでした。米以外の
新たな財政基盤が求められて
いたのです。
そこで意次が注目したのは、
発展著しかった民間の富や人
材でした。商品経済の発展は、
米以外の特産物生産を盛んに
し、新たな富や産業、技術を
生み出していました。意次は、
これを利用して、数々の
政策を試みました。
その一つが、株仲間の奨励
です。株仲間とは、商人や職
人同士が結成した同業者によ



市場の拡大に寄与したと評価
されています。
なお、この政策自体は、享
保の改革でも行われましたが、
物価や流通量の統制を図るこ
とが主な目的でした。意次の
場合は、これを年貢以外の収
入方法として積極的に活用し、
増収を図ったことが特徴です。
幕府も商工業者も、さらには
一般庶民も得をする、大変良
く考えられた政策でした。



菱垣廻船問屋仲間(『大坂商人買物独案内』(個人蔵)より)
菱垣廻船は、江戸・大坂間の物資輸送を支えた江戸時代を代表する商船。安
永2(1773)年、この廻船を運営する9軒の問屋が公認され、株仲間となった。